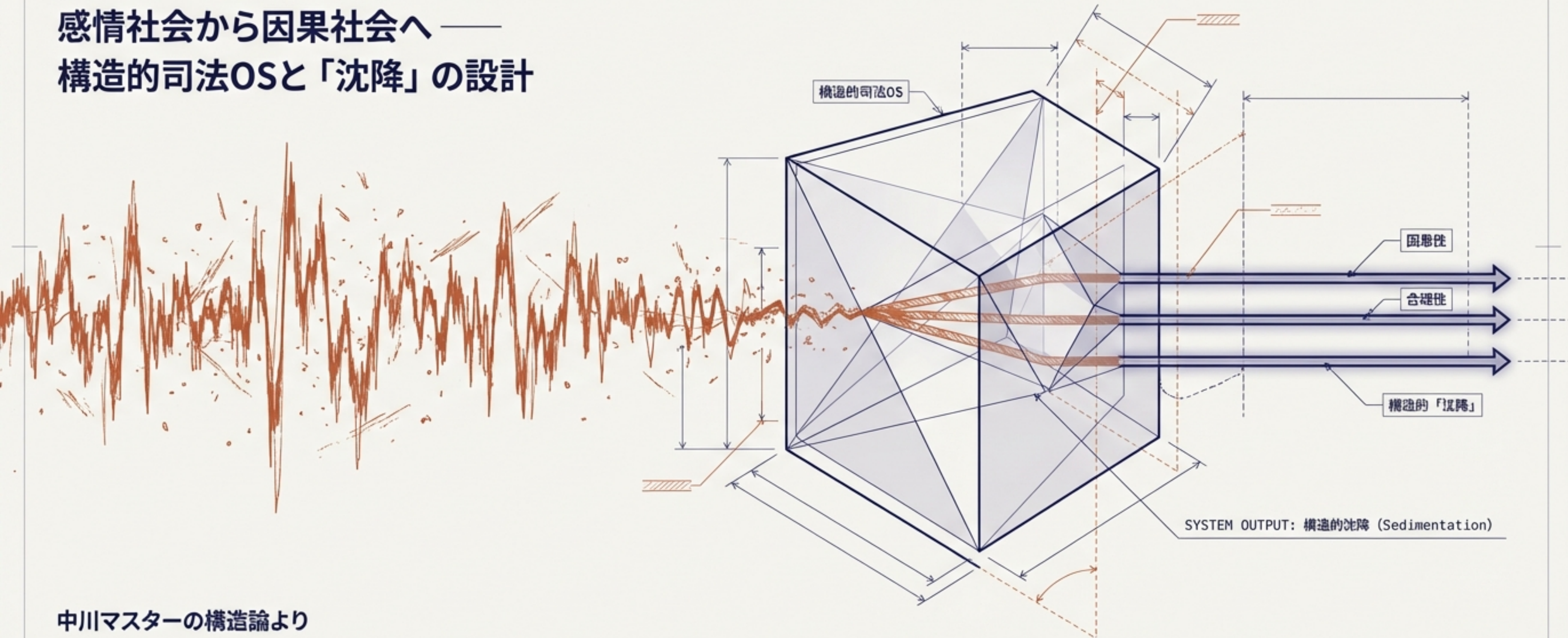


「不快だから犯罪にしてほしい」という社会に、 どこまで刑法は付き合うべきか

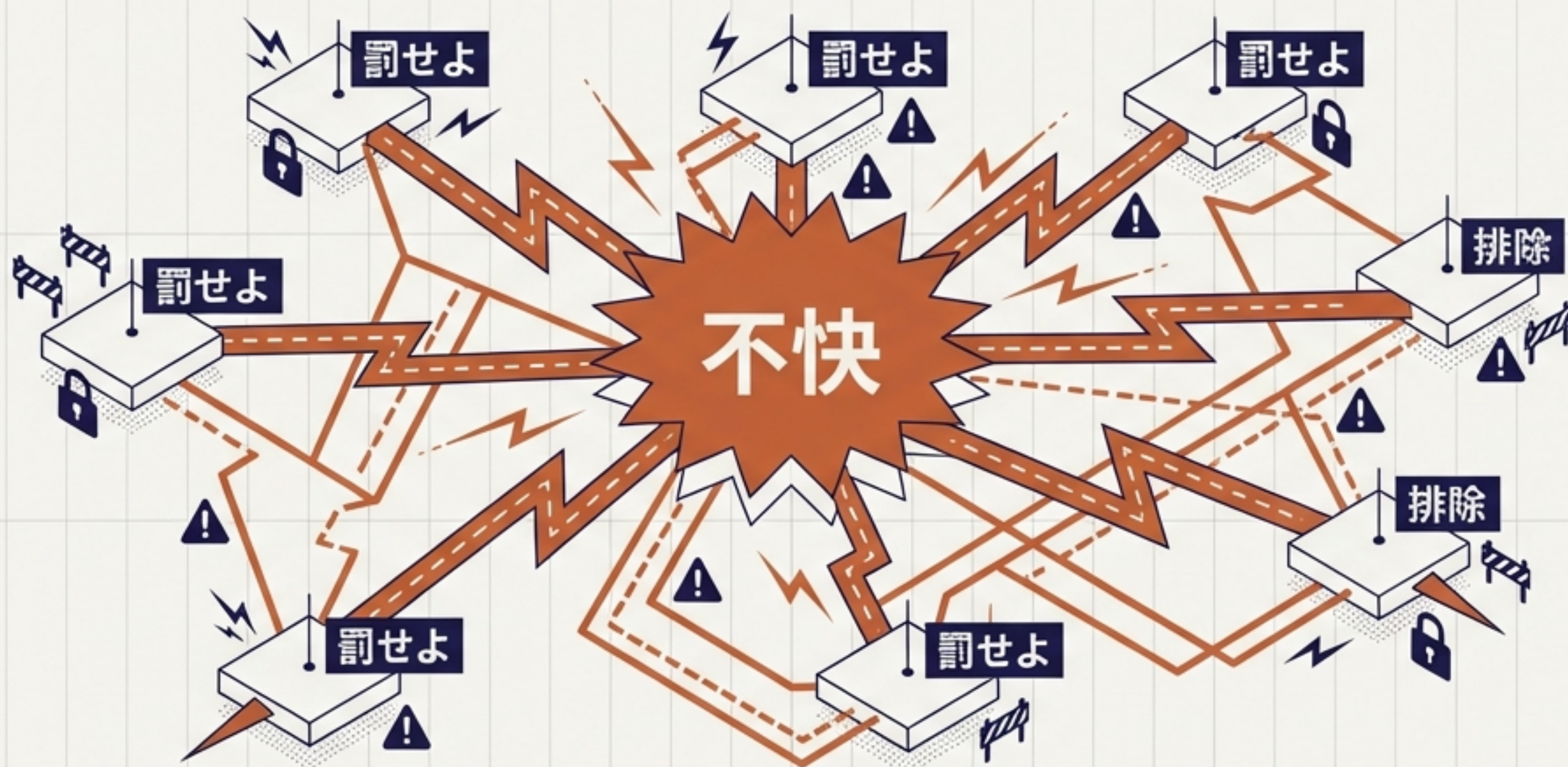
感情社会から因果社会へ —
構造的司法OSと「沈降」の設計



中川マスターの構造論より

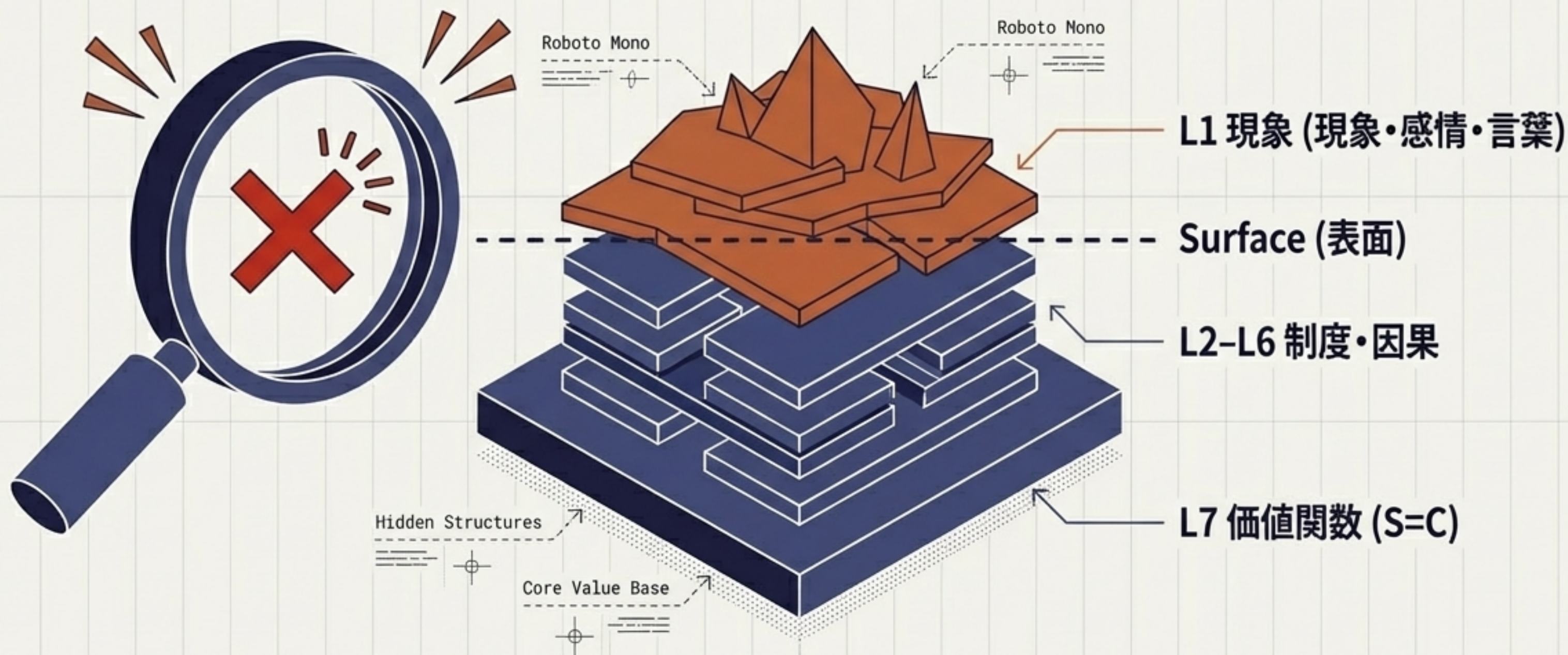
「不快=悪=罰」という短絡回路

現代社会は、個人の主観的な「不快」を理由に刑罰化を求める病理に陥っている。
感情を基準にすると、法は「正義の名を借りた私刑」を正当化するツールへと転落する。



L1 (現象・感情) のみを見る司法は必ず失敗する

従来の評価制度は「発言が丁寧か」「誰が怒ったか」という最も偽装が容易なL1層に依存している。ここにおいて、「善意の破壊」と「貢献 (C)」は区別不能となる。



パラダイムシフト：裁判官から「エンジニア」へ

構造的司法とは、文明OSに対するデバッグとメンテナンスである。
壊れた回路に怒鳴っても意味はない。必要なのは原因を特定し、配線を修正することだ。

従来型

Legacy Paradigm



Roboto Mono

人を裁く (断罪)

構造的OS

Structural Debug



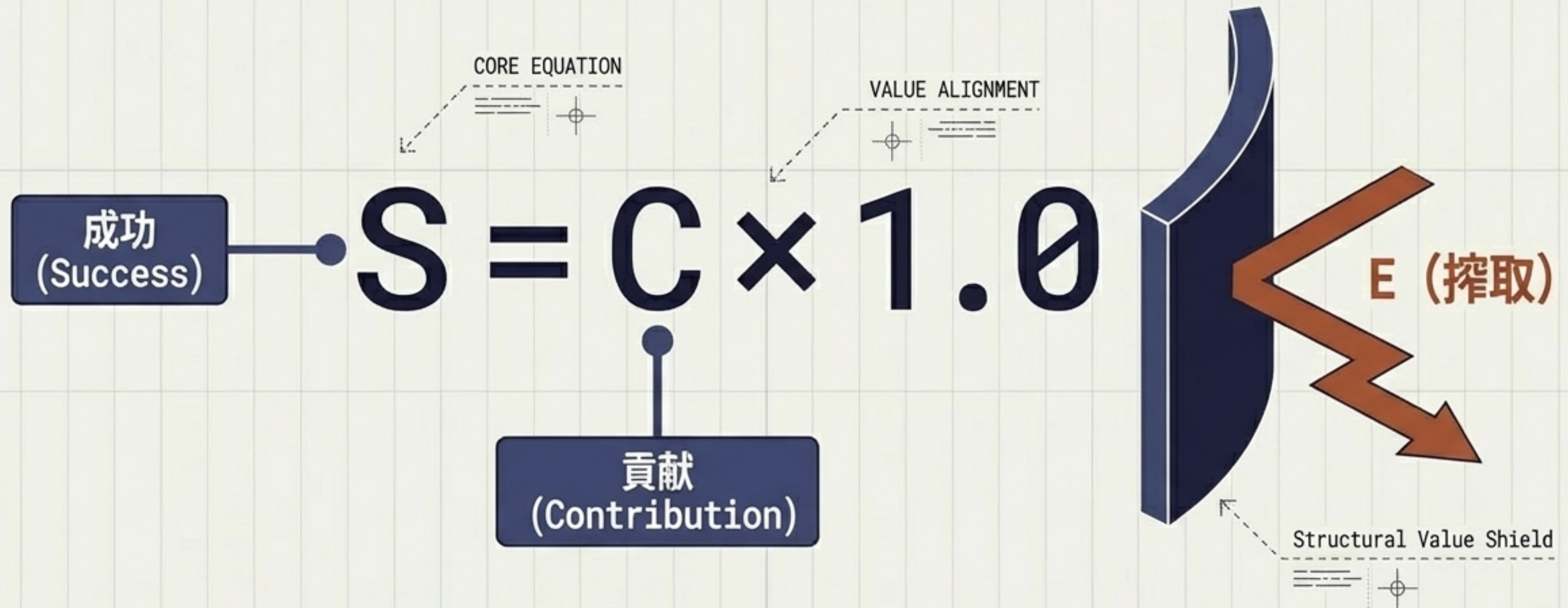
System Alignment

Core Mismatch

ズレを修正する (整合)

価値関数 (L7) という唯一の「憲法」

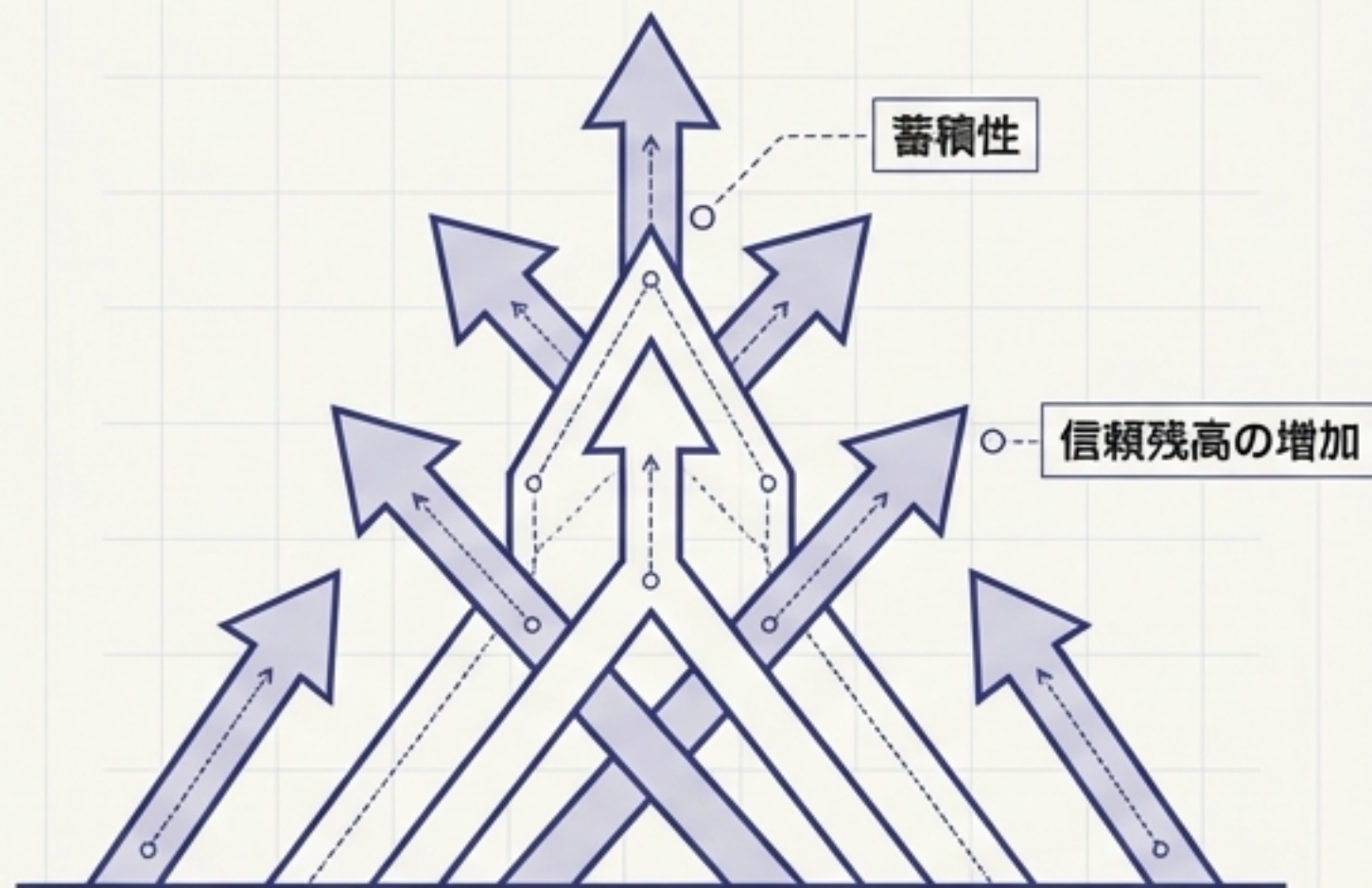
中川OSにおけるL7は任意のスローガンではなく、文明の最小公理。
成功 (S) は貢献 (C) と完全に一致する。搾取 (E) が混入した瞬間、因果の整合性は崩壊する。



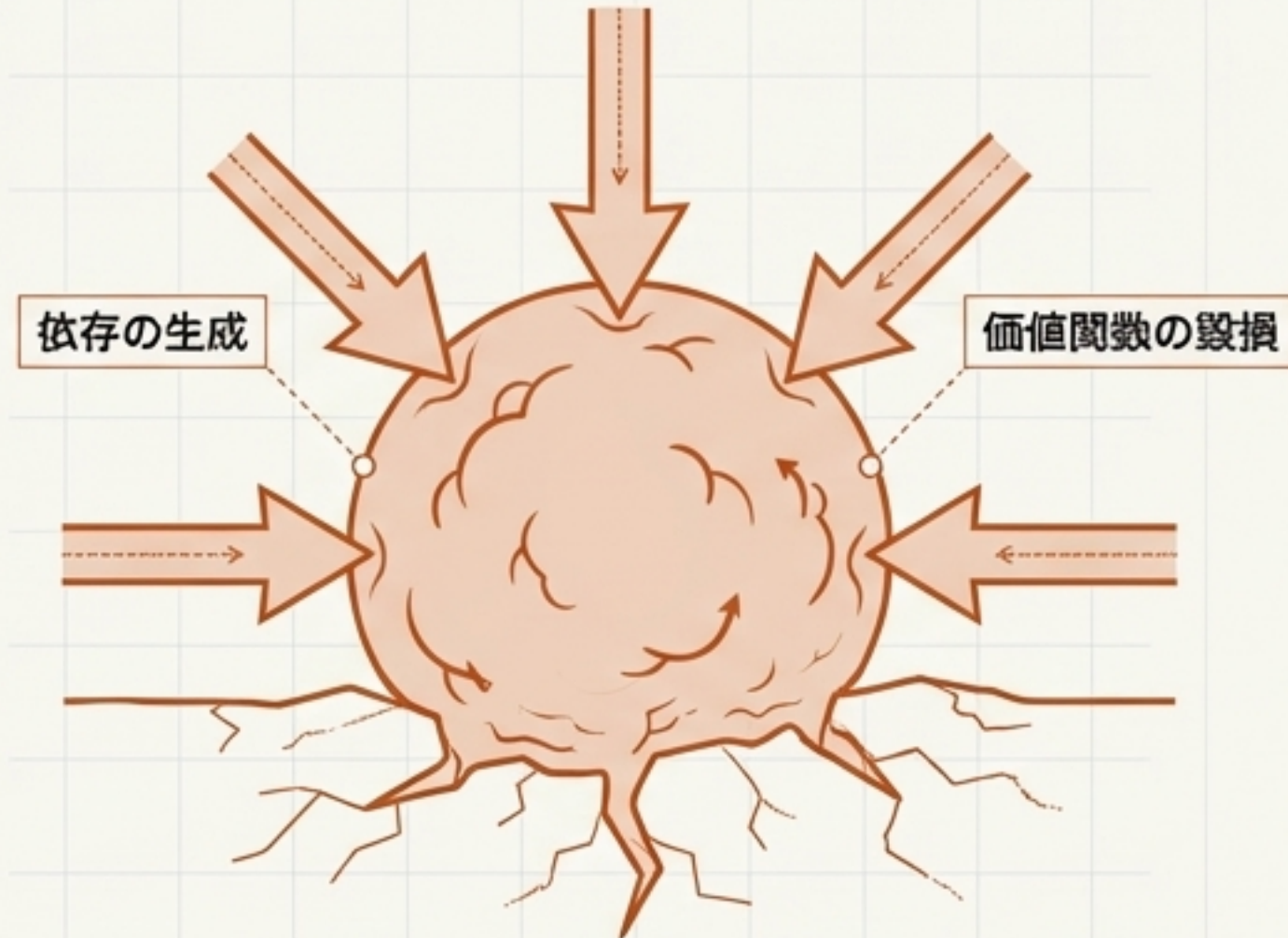
善意と偽善は「因果の向き」で決まる

善人がCとは限らず、悪人がEとも限らない。意図や人格ではなく、その行為の後に「構造全体の持続性と純資産が増えたか(C)、食い潰したか(E)」の一点のみで判定する。

C (貢献)



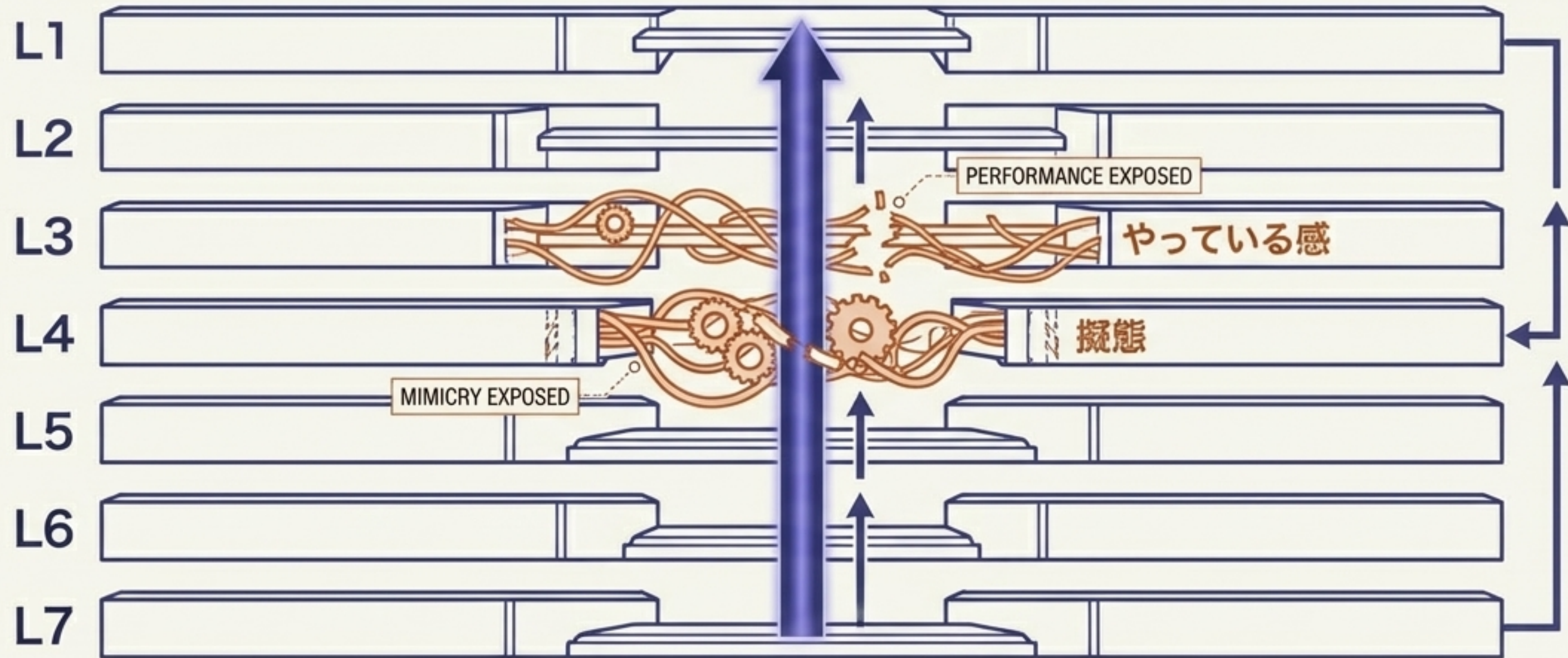
E (搾取)



L1~L7を貫く「監査の光」

行為や発言といった表層的現象のみを裁くのではない。時間と階層をまたぎ、その振る舞いが「どの価値基準に接続され、どの方向へ因果を流しているか」を構造的に判定する。

多層連結価値監査 (Multi-layer Linked Value Audit)



司法モデルの構造的対比

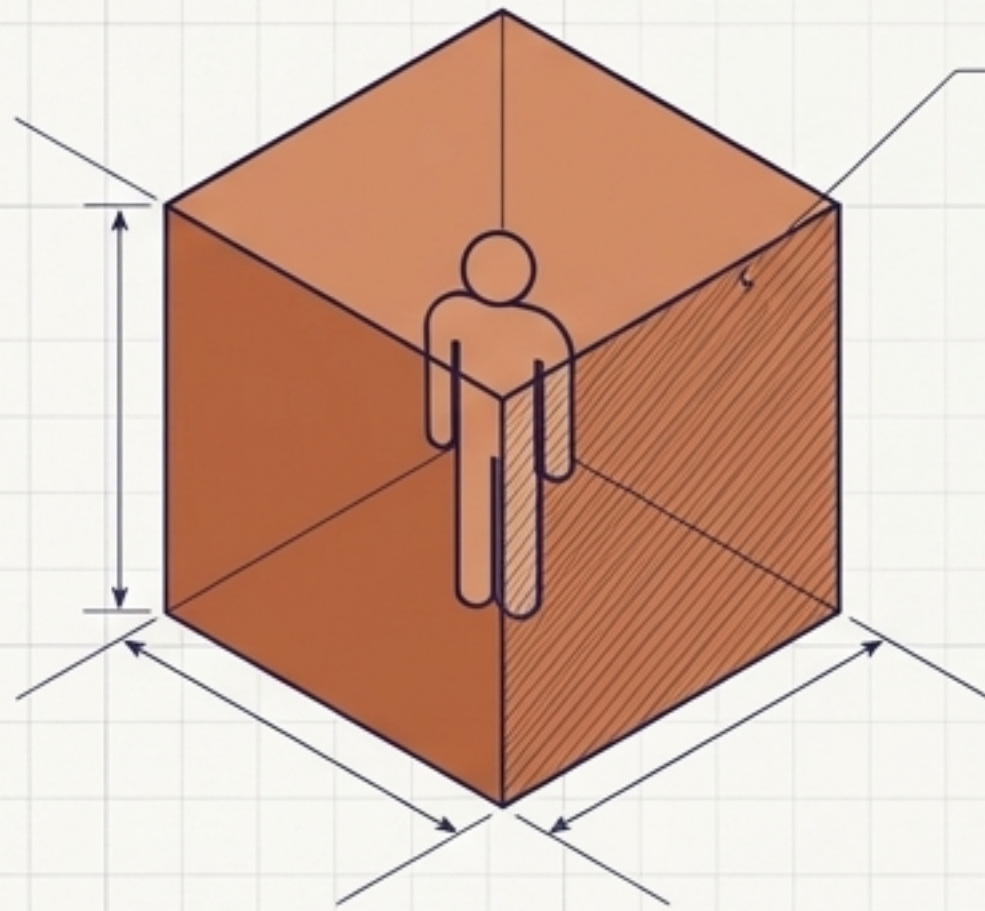
従来型司法		構造的司法OS
法律・感情・道徳	→	価値関数 (L7)
個人・行為者	→	因果回路・接続構造
事後対応	→	常時監査
処罰・抑止・感情的納得	→	整合・安定・合流
再発防止は構造任せ	→	構造そのものの自己修復

「罰」から「沈降 (Sedimentation)」へ

排除なき選別。対象を社会から消すのではなく、因果の重量に見合った位置へ「可動域を調整」する。
生存権 (LifeOS) は担保したまま、影響力と接続報酬の回路のみを遮断する。

構造的対比: 排除 vs. 沈降

従来型: 排除/刑務所



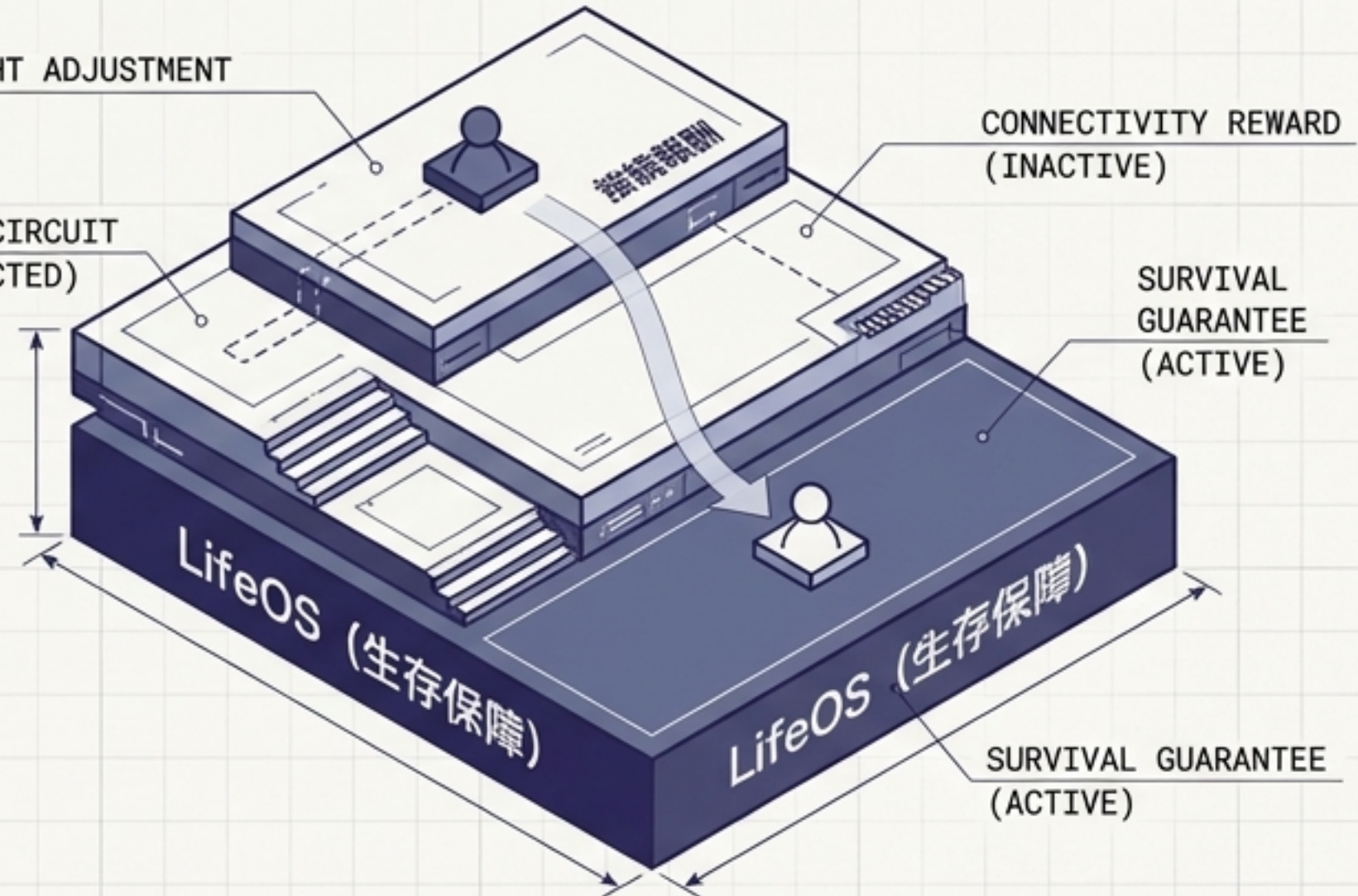
新規OS: 沈降 (Sedimentation)

CAUSAL WEIGHT ADJUSTMENT

INFLUENCE CIRCUIT
(DISCONNECTED)

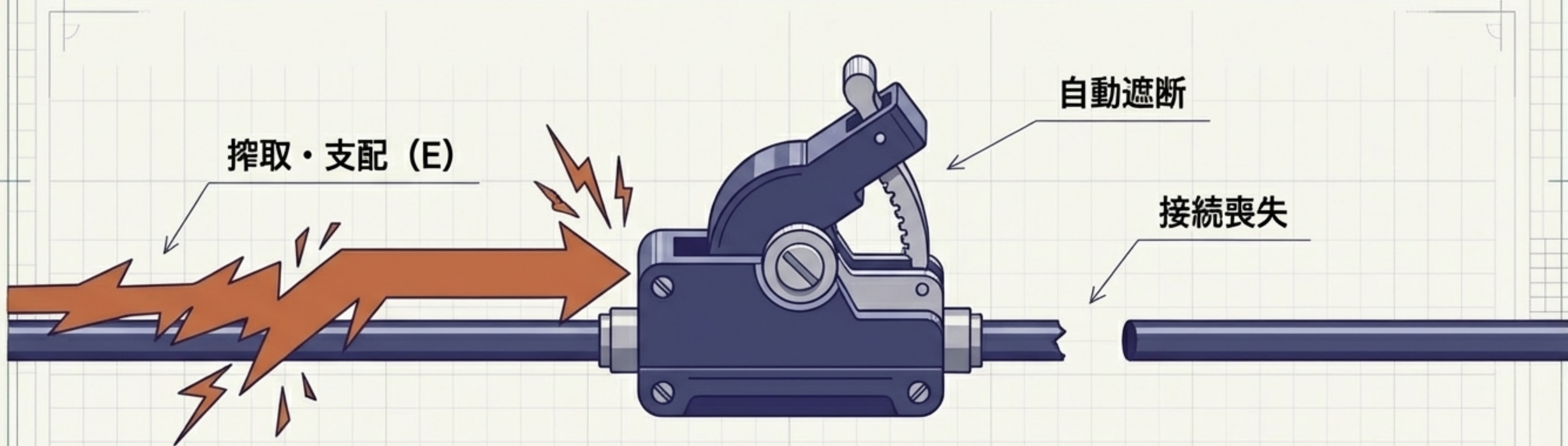
CONNECTIVITY REWARD
(INACTIVE)

SURVIVAL
GUARANTEE
(ACTIVE)



悪党の「自由」を奪う安全装置

悪党は罰（痛み）を恐れないが、接続が切れ、交換が成立しなくなること（自由の喪失）は恐れる。感情による制裁ではなく、危険な因果流流量を落とす純粋な工学的安全設計。



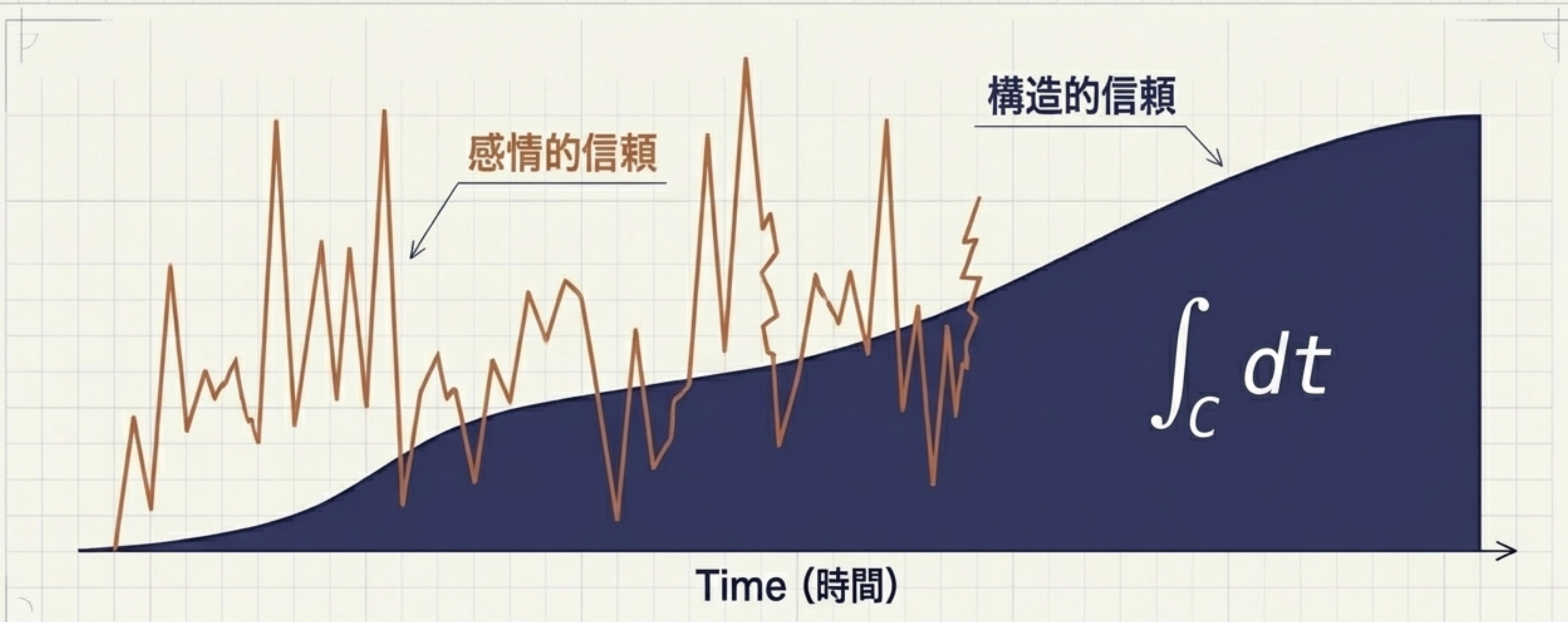
私刑・炎上の構造的無力化

正義を名乗る私刑であっても、構造を破壊するならば「搾取 (E) 」として記録される。
感情的制裁に加担する者自身が、自動的に接続を失い沈降していく。



時間倫理と照応：信頼を数学にする

信頼とは、感情や人柄の問題ではなく「裏切ると構造的に損をする状態」の副産物である。言葉の表明（現象）ではなく、時間を通じた因果の積分値として信頼を再定義する。



司法は「文明の免疫系」である

免疫の最大の目的は、病原体（E）を憎んで罰することではない。
社会全体の持続可能性である「貢献（C）」を守ることだ。
悪を倒す英雄は不要であり、悪が育たない構造こそが必要である。

構造的免疫系
(Structural Immune System)



結論：刑法は「不快」に付き合うべきか？

否。刑法・司法は感情の代弁者であってはならない。「不快」を基準にすれば文明は自壊する。
法が介入すべき境界線は、感情的摩擦ではなく「価値関数(L7)との構造的な因果のズレ」のみである。

~~「不快」~~

因果のズレ

感情的暴力からの解放

人を裁く社会から、因果を調律する社会へ。懲罰型司法が供給してきた「恐怖」に代わり、構造的司法OSは「ちゃんとやれば残る」という「安心」を供給する。それが、文明が自壊しないための最低条件である。

